

底辺拡大期

(1986~1988年度)

★低学年層の充実などが課題となり、新入部員の獲得に取り組み始めました。また、試合観戦や交流試合のほか、合宿にはOB中学生も活動に取り込むなど、スポーツ少年団としての広範な活動の芽生えです。

年度	月	主な活動・トピックス等
1986 (昭和61)	4月	新入部員の獲得（各学年1チームを目標。少なくとも2学年で1チームが組めるように。）が課題となり、勧誘ビラを作成して配る
	5月	キリンカップ決勝戦観戦
	6月	6月から9月末まで校庭改修工事のため練習グラウンド確保に苦勞（旭町青少年グラウンドや看護学校グラウンドなどを使用）
	7月	飯山「本陣」（練習：住友海上火災グラウンド）で2泊3日の夏合宿を行う（OB中学生18名も参加）
	8月	OB中学生4名を含む約20名で大山登山
	9月	東海大学グラウンドにおいて第1回東海カップが開催される（高学年2位、低学年3位、得点王：小宮久門君、アシスト王：真柄俊幸君、村林
	9月	日産座間工場の見学と日産サッカー教室への参加
	9月	黒の上下のジャージをつくる
	10月	日本リーグ試合観戦
	11月	厚木市スポーツ少年団スポーツテストに1年から6年までの27名が参加し、2年生の村林浩史君が1級に合格（9団241名の参加者中で1級合格は8名）
	12月	トヨタカップ観戦
	1月	高校選手権大会決勝戦観戦
	3月	6年生12名（9期生）及び城戸コーチとのお別れ会
		●第13回FIFAワールドカップ・メキシコ大会開催。アルゼンチンが優勝する。天才マラドーナの、マラドーナによる、マラドーナのための大会だった。
1987 (昭和62)	4月	一人ひとりの成長にそった指導を行い、指導の一貫性を目指すとともに、コーチ・部員・父母のコミュニケーションなどの実現を目指すため「サッカーだより」を新たに始める。また、学年ごと学期ごとの指導目標や練習計画をコーチに考えてもらうこととする
	6月	練習試合中の激突事故をきっかけに傷害規程の内規を作成
	6月	2年生1学期市内大会で3位となる
	7月	松田コーチ帰郷中に交通事故で腕を骨折
	7月	飯山「本陣」（練習：住友海上火災グラウンド・厚木小）で2泊3日の夏合宿を行う（OB中学生12名も参加）
	8月	夏季練習で親子キックベース
	8月	第2回東海カップに参加し、試合はほとんど負けたが「グッドマナー賞」を得る
	2月	市内父母大会に母親チーム参加し2位を獲得

3月 6年生1名（10期生）及び松田コーチとのお別れ会

1988（昭和63）

4月 子供が卒業した後も前熊野会長には監督として残ってもらうことに

8月 読売ランドで行われた**全日本少年サッカー大会準決勝戦を観戦**

8月 **飯山「本陣」**（練習：住友海上火災グラウンド）で2泊3日の**夏合宿**を行う（**OB中学生4名も参加**）

8月 **第3回東海カップ**に参加（得点王：村林浩史君）

9月 **厚木市スポーツ少年団連絡協議会10周年記念表彰**で**熊野監督**表彰される

12月 リトルジャンボ主催のクリスマスカップで4年生優勝

1月 スポーツ少年団認定指導員養成講習会に監督参加

3月 6年生6名（11期生）及び駒村コーチとのお別れ会